

構内配置図(2)、とりこわし建物一覧、撤去樹木一覧 2

- (1) 文部科学省発注工事請負契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面及び本特記仕様書（以下「標準仕様書」という。）
等のうち、○印の付いたものを適用する。
- 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下「標準仕様書」という。）
 - 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
 - 文部科学省建築工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科仕様書」という。）
 - 文部科学省建築改修工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科改修仕様書」という。）
 - 工事写真撮影要領（令和5年9月）
 - 建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）
 - 建築工事標準詳細図（令和4年版）
 - 文部科学省土木工事標準仕様書（令和4年版）

2. 特記仕様
- (1) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、○印の付いたものを適用する。
- 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
- 3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 () 〕内表示番号は、文科仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 [] 〕内表示番号は、改修文科仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- 4) 〔◎〕印は、「国等による環境物品等の調達への推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（令和7年1月28日変更閣議決定）に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

1

各章共通事項

項目

・適用区分

○電気保安技術者、工事用電力設備の保安責任者

・建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

・風圧力

風速 (Vo = 32 m/s)

地面粗度区分 (・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ)

・積雪荷重

平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表 (32)

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。

(1.3.3～4)

項目名	電気保安技術者
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・
4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・
6 第1種電気工事士の資格を有する者	・
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	・
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工學以外の工學に関する学科において一般電気工學（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

○施工条件

この工事現場では、次の施工条件による。

(1.3.5)

●本工事建物周囲には、研究棟や住宅等が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分配慮すること。

●工事用地および工事用地周辺において適切な養生・清掃を行うこと。また、工事車両の搬出入跡などに周辺道路等を汚損、破壊等した場合は速やかに対応すること。

●騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。

●臭気の発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。

●学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。

その他、学内行事等による作業の中止については、監督職員と協議すること。

●工事車両の通行は交通整理員を配置すると、安全対策を講ずること。

●その他建物内や敷地周囲に影響があると思われる作業については、監督職員と協議を行い進めること。

●工事用地内の環境美化（草刈り等）に努めること。

●構内実施中、又は実施が決定した他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。

工事名 京都大学（北部）先端フィールド科学教育研究拠点用地埋蔵文化財調査その他工事			図面番号 特 1
図面名称 特記仕様書（抜粋）	縮尺	設計日 令和7年5月	

現場説明付記事項

1 工事施工上の注意事項

- 1) 車道通行路路は、図示の通りと監督職員と協議の上、誘導員等を配置し、交通整理を行うこと。
工事車両は周辺道路路上での違法駐車を行わないようにし、また路上に縦列待機させることも行わないこと。
- 2) 工事用地は図示の範囲とし、危険防止のための関係者以外の出入りができないようにすること。また、工事関係車両（通車車両を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車を禁ずること。
- 3) 学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。
- その他、学内の試験等を行う際の中止については、監督職員と協議すること。
- 4) 撤去作業の中で大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めること。また、施工程の防音対策を十分に検討し行うこと。
- 5) 教職員、学生等の通行が頻繁なため、構内車道通行には十分の配慮等、十分注意するよう指導を行うこと。
- 6) 工事場所内に火災予防のため適切な数量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
- 7) 支障となる地中埋設物を発見した時は、監督職員と協議の上の撤去し、適正処分すること。
- 8) 工事用地は、除雪作業に良好な環境を保持すると共に工事完了時には現状に復旧して返還すること。同一構内での工事の業者と必要調整を密に言い、安全かつ増進方式の実施に努めること。
- 9) 作業時間は、午前8時から午後6時を原則とすること。
- 10) 構内における喫煙については、監督職員と協議の上の、健康増進法（平成十四年法律第百三十三号）第二十五条の五に基づき安全喫煙対策を講ずること。
- 11) 堅固舗装にかゝる、安全設備設置等、安全対策を実施すること。

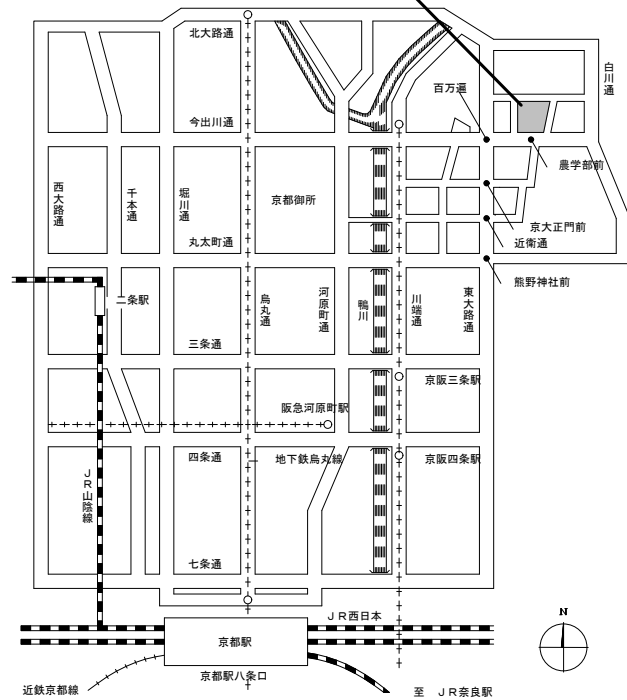
2 工事中の構内安全対策について

工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。

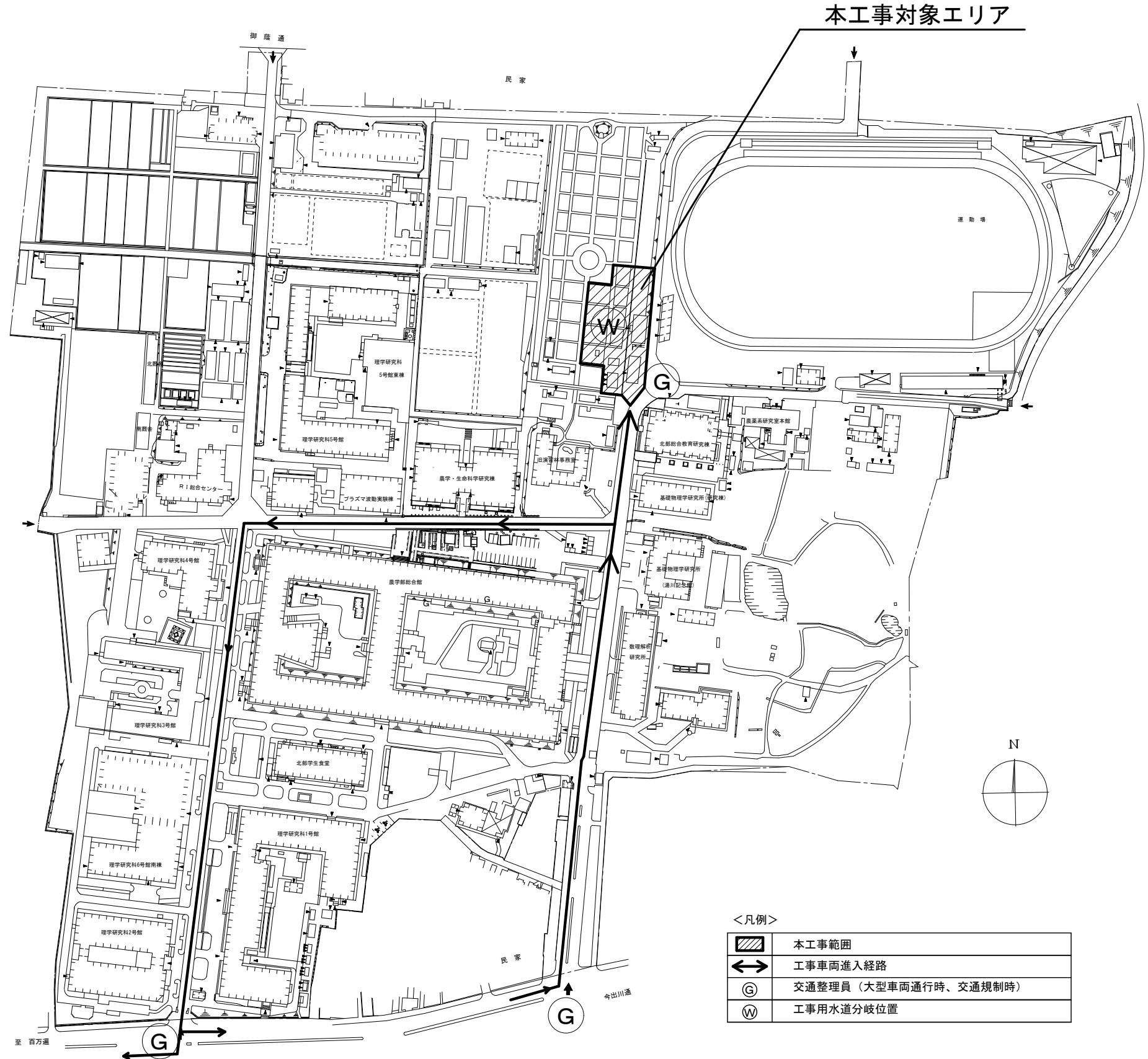
- 1) 監督職員と協議の上、構内通行に工事予告板、警戒標識板、交通規制標識板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つておく。
- 2) 掘削時等危険な状態となるときは、安全柵、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を設置し、安全な状態を確保すること。
- 3) 構内通行の安全及び騒音防止のため工事車両は徐行すること。
- 4) 大型車両の構内通行に際し、地下埋設物、マンホール等は必要に応じて養生を行うこと。
- 5) 大型車両による作業の場合は必要に応じて交通整理員を追加増員し、誘導、交通整理等により構内の安全確保に努めること。
- 6) 依拠いの設備に伴い、構内通路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。
- 7) ハネルゲートには警子つき回転灯を設置するなど事故防止に努めること。

本調査場所

京都大学北部構内







案内図 NO SCALE

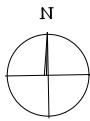


構内配置図 S=1/1, 250

<凡例>

	本工事範圍
	工事車両進入経路
	交通整理員（大型車両通行時、交通規制時）
	工事用水道分岐位置

工事名 京都大学（北部）先端フィールド科学教育研究拠点用地埋蔵文化財調査その他工事		
図面名称 案内図、構内配置図（1）	縮尺 A1: 1/1,250 A3: 1/2,500	設計日 令和 7 年 5 月



とりこわし建物一覧

番 号	建 物 名 称	面 積	構 造
①	ガレージ及び資材倉庫	45㎡	S1
②	農学部資料館	166㎡	B2
③	演習林物置	21㎡	S1
④	演習林材鑑室	104㎡	W1

撤去樹木一覧（切り株）

幹 の 太 さ	本 数
1cm以上20cm未満	12本
20cm以上50cm未満	8本
50cm以上80cm未満	1本
80cm以上100cm未満	4本

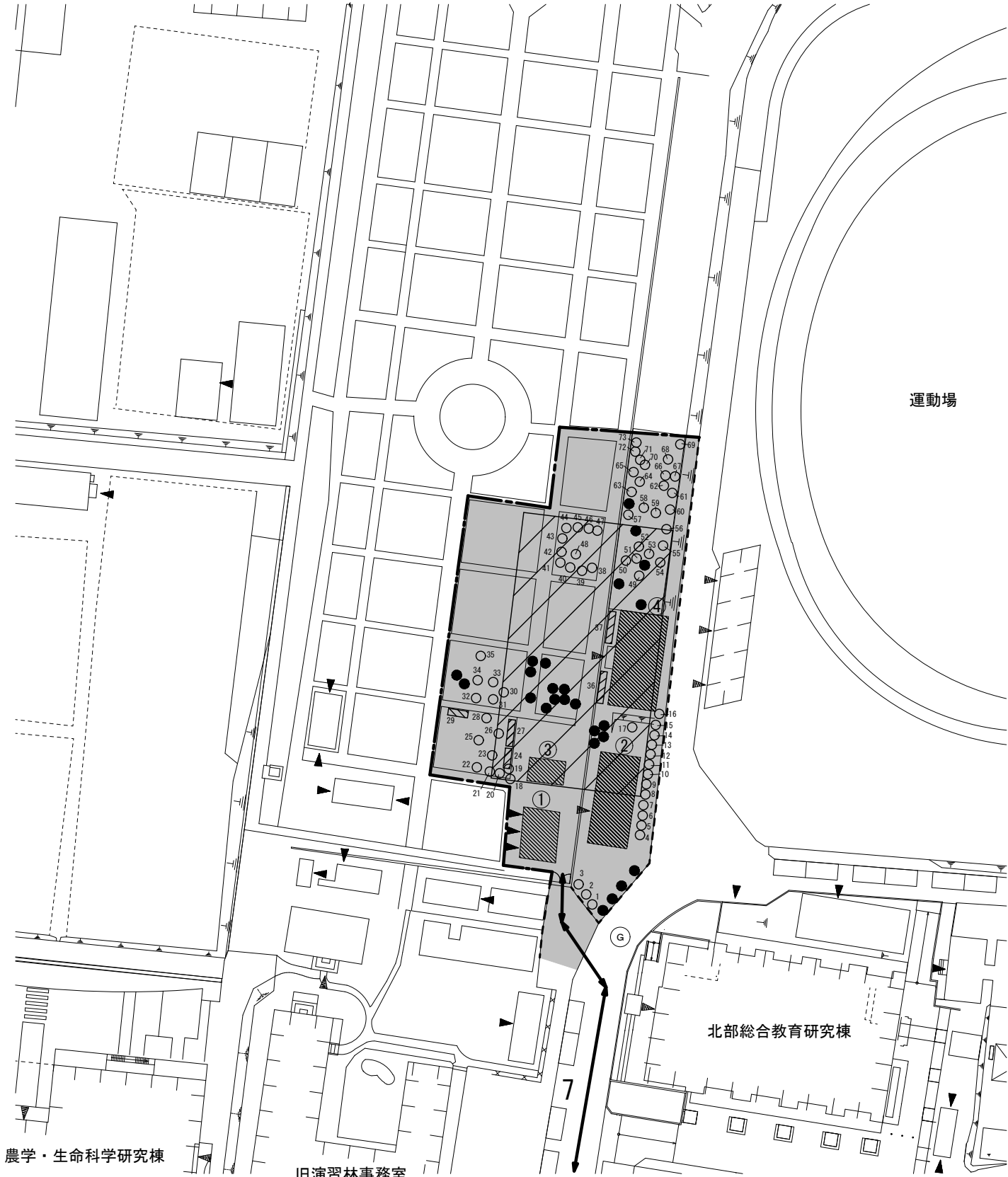
凡 例

記 号	内 容
	埋蔵文化財調査範囲
	本工事用地 2,060㎡
	仮囲い（フェンスバリアード H=1.8m L=121m）
	既存フェンス
	工事用車両進入経路
	交通整理員（大型車両入構時1名）
	高木（伐採・伐根）
	垣根（伐採・伐根）
	切り株（伐根）
	とりこわし建物（基礎共）

撤去樹木一覧（高木・垣根）

番 号	樹 木 名 称	備 考
30	不明 D= 5.5 H= 5.7	
31	ウツギ D= 4.8 H= 3.0	
32	ハマヒサカキ D=35.5 H=16.1	
33	ハクウンボク D=10.8 H= 4.5	
34	カエデ D= 7.4 H= 8.6	
35	ハクショウ D=10.5 H= 6.4	
36	オオムラサキ W= 4.8 H= 1.0	
37	リュウキュウツツジW= 4.8 H= 1.0	
38	モッコク D= 3.5 H= 3.0	
39	モッコク D= 1.0 H= 2.0	
40	不明 D= 2.6 H= 2.5	
41	カキ D= 2.7 H= 5.0	
42	エノキ D= 8.9 H= 5.0	
43	ヒイラギ W= 3.5 H= 2.5	
44	不明 D= 3.0 H= 2.0	
45	トウネズミモチ D= 9.5 H= 5.0	
46	ゲッケイジュ D= 1.6 H= 2.5	
47	ゲッケイジュ D= 2.5 H= 2.5	
48	ヒメリンゴ D= 5.7 H= 4.0	
49	フクリンアオキ D= 2.0 H= 1.5	
50	不明 D= 5.0 H= 5.0	
51	不明 D= 1.0 H= 3.0	
52	サネカズラCV D= 3.0 H= 1.5	
53	ヤエヤマブキ D= 2.0 H= 1.75	
54	ツバキCV D= 6.7 H= 2.0	
55	ツバキCV D= 8.3 H= 2.0	
56	ツバキCV D= 4.8 H= 2.0	
57	バターナッツ D=17.5 H= 7.4	
58	ハナミズキ D=11.9 H= 6.68	
59	チョウセンモミ D=30.5 H=12.5	3m×1本 ※
60	ツバキCV D= 6.9 H= 2.0	
61	ツバキCV D= 5.1 H= 2.0	
62	アメリカガキ D=29.3 H=13.7	3m×1本 2m×1本 ※
63	ハナミズキ D= 8.0 H= 4.6	
64	ハナミズキ D=11.9 H= 6.6	
65	セイヨウイチイ D= 9.0 H= 3.7	
66	アメリカガキ D=28.6 H=11.3	3m×1本 ※
67	ツバキCV D= 7.5 H= 2.0	
68	イヌビワ D=16.5 H= 5.2	
69	ツバキCV D= 7.3 H= 2.0	
70	トキワサンザシ D= 3.0 H= 2.5	
71	トキワサンザシ D= 5.9 H= 6.7	
72	セイヨウイチイ D=31.5 H= 9.1	3m×1本 ※
73	セイヨウイチイ D=11.4 H= 8.2	

D:直径(cm) W:幅(m) H:高さ(m)
※備考欄に長さ和本数の記載がある樹木はその分だけ伐採して樹木を保管。
（現地にピンクテープの目印あり）



農学・生命科学研究棟

旧演習林事務室

北部総合教育研究棟

運動場

構内配置図 S=1/400

工事名 京都大学（北部）先端フィールド科学教育研究拠点用地埋蔵文化財調査その他工事			図面番号 2
図面名称 構内配置図（2）、とりこわし建物一覧、撤去樹木一覧	縮尺 A1:1/400 A3:1/800	設計日 令和7年5月	